

本社(札幌)報道センター
 ☎011-210-5555
 FAX 011-210-5556
 メール sapporo@hokkaido-np.co.jp

小樽支社報道 ☎0134-22-6171
 苫小牧支社報道 ☎0144-33-5331
 岩見沢総局 ☎0126-22-0120
 購読の申込みは ☎0120-464-104

昨年冬、札幌のわが家に
 念願のまきストーブを入れた。その年入手したまきは
 新しく、水分をたくさん含
 んでいたので火付けに難儀
 したが、ようやく燃え上が
 ったまきの炎と家全体を暖
 める火力に魅了された。次
 の冬からのまきの確保が、
 わが家の課題となった。
 大学の先輩の草刈健さん
 に相談すると、苫小牧東部
 地域(苫東)北端、胆振管
 内安平町遠浅地区にあるま
 きの生産現場に誘われた。

キャンパスから

東京農工大
 梶光一教授

森林とシカ 統一的管理を



安平町遠浅地区の間伐跡地に設けられたシカ食害防止電気柵試験地

草刈さんは「苫東環境コモンズ」というNPO法人を立ち上げて苫東の森を守る活動をしている。地元町内会が自ら管理していける森づくりを念頭に置き、周辺に住む会員と共に雑木林の間伐やフットパスの整備を行っている。間伐材を利用したまきは「雑木まき」と

命名され、「まき会員」に有償で配布されている。草刈さんからは20年以上も前に、苫東でエゾシカが本州からの企業誘致シンボルになるか、と相談されたことがあった。当時、苫東のシカの生息密度は低かったが、落葉広葉樹防風林と牧草地がモザイク状に配置

され雪が少ない苫東の景観は、絶好のシカ生息場となる、と答えた。今では予測の通り北海道有数のシカ生息地になり、あちこちでシカの食痕や姿が見受けられるようになった。

だがシカは落葉広葉樹の枝葉を好むため、増えすぎると広葉樹の天然更新を阻害してしまう。そのため、シカの生息密度を広葉樹が天然更新できるレベルに維持する必要がある。実際に苫東ではシカの個体数管理がなされており、捕獲の強化も計画されている。

今後は森林とシカを统一的に管理する仕組みと、それを実施する「フォレスト1(森林官)」の育成が必要だ。コモンズの活動にシカの管理が加わって、森の保全・活用がさらに進むことを願っている。